

# 東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター カトリック仙台司教区・カリタスベース

(宮古・大槌・釜石・障がい者センターかまいし・大船渡・米川・石巻・福島デスク・原町・もみの木・CTVC)

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378  
1) 義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局  
2) 支援金振替口座：00170-5-95979  
名義：カリタスジャパン

被災地は冬を迎え、本格的な寒さの中、ボランティア活動を続けております。今回は、長崎教会管区の全面的なバックアップで、「東日本大震災復興支援 in 九州一友よ、私たちは忘れない」が、全ベース参加で福岡で開催されました。その様子をご紹介します。さらに、被災地ツアー「被災地の今！」の参加者の体験レポートと、今後の被災地ツアー日程のお知らせを掲載いたしました。ご覧ください。

## 友よ、私たちは忘れない

### 「東日本大震災復興支援 in 九州」

仙台教区サポートセンター 長谷川 昌子

11月3日、「東日本大震災復興支援 in 九州 一友よ、私たちは忘れない」が、日本カトリック神学院福岡キャンパスで開催されました。福岡教区では、毎年、文化の日である11月3日は「召命の集い」が神学校で開かれるということが定着しているため、この日に「東日本大震災復興支援 in 九州 一友よ、私たちは忘れない」をドッキングさせていただきました。



この日のため、北は宮古ベースの関係者から、南は福島の原町ベースのスタッフまで総勢26人は、前日の午後2時半に福岡教区カテドラルであるカトリック大名町教会に集合して、福岡教区所有の大型バスで神学校に向かいました。

神学校は広大な敷地と美しい建物と豊かな緑がある閑静な場所であり、北海道のトラピスト修道院をご存じの方は「トラピストみたい」と感想を話していました。

神学校の前庭の右半分が、私たちに与えられた場所でした。長崎教会管区の方が「各ベースの皆さんは、いつも活動でお疲れでしょうから、今日はゆっくりして働かないでください」とおっしゃったばかりだったのですが、すぐに、テント張りや机を並べたりしながら、機敏に準備をするカリタスベースの皆さんに、福岡教区の方々は感心なさっていました。



前日の天気予報では、「午前中は雨」というものだったため、翌日の天候を心配している私たちに、「文化の日は毎年晴れる」という確信を持っている長崎教会管区、福岡教区の主催者の方々は、「大丈夫です。晴れますよ」と、すっかり神様に委ねきっていらっしゃいました。

神学校での設営を終え、各自のブースの位置を確かめ、再び大名町教会に戻りました。夕方からは、交流会が計画されていたのです。

交流会には、毎年夏に、福島の子もたちとそのご家族を招待して下さっている「博多にきんしゃいプロジェクト」のボランティアの方々なども集まってくださり、約80人が交流することができました。



左から、大船渡ベース、米川ベース、カリタス釜石のブース

各ベースごとに、舞台の上から、皆さんに感謝とベースの紹介をすることができました。最後に、福岡教区から、「私たちは、被災地の方々に忘れていない、という証しとして」とご寄付をいただきました。

そして、当日3日は、やはり晴れ。福岡市内のみならず、県内各地の教会から、大型バスをチャーターして、ぞくぞくと子どもたちや大人が神学校に到着してきます。主催者の予想では、800人ということでしたが、実際はもっと参加者が多かったように思いました。

「復興支援」の企画も含め、「召命の集い」の企画立案実施の責任は、すべて神学生が担っています。ですから、最初から最後まで、神学生の方々が私たちのブースに立ち寄ってくださり、盛り上げてくださいました。その神学生の中に、石巻教会をベースとして使っていた活動初期に、石巻ベース長として活躍して下さり、その後、札幌教区の神学生となった佐久間さんがいたのです。スータン姿で現れた佐久間さんを見つけると、宮古ベースのブースに立っていたボランティアさんから、喜びの声が上がりました。

9時から開会式が、グラウンドで始まりしました。私たちカリタスベースのメンバーは、準備が終わらず、残念なことに開会式には出られませんでした。

まだ一生懸命、準備をしているところでしたが、開会式が終わった参加者たちが、早速駆けつけてくださり、急に忙しくなりました。

「三陸一のわかめですー!」、「南三陸一の昆布ですよ!」、「しいたけのかりんとう、珍しいし、おいしいですよ」などなどの呼び声が飛び交います。派手なはっぴを着てひときわ目立っているのは、大槌ベースのスタッフの皆さんです。米川ベースには、ボランティアに来て下さっていた学生さん3、4人がいつも手伝ってくださいました。通りかかる知人や友人に声をかけてくださり、そのお陰もあって、持って来た南三陸の海の幸の数々は全て完売。カリタス釜石も、8箱持って来た「塩蔵わかめ」を完売しました。



宮古ベースのブース(左) 大槌ベースのブース(右)  
大槌ベーススタッフは、はっぴでお客様の呼び込みと接客です。

原町ベースは、通称「トン袋」と呼ばれている黒い1トン入りの「フレコンバッグ」を展示し、その近くに、汚染物質が入れられた何千、何万と言われているフレコンバッグが積みあげられた福島の写真も展示し、その説明に足を止めた多くの参加者の目をうばっていました。「えーっ、知らなかった。こんな状況だなんて」という人、「2011年には、ボランティアに行ったのですが、その時は、福島には行けなかったのが、残念！」という方もおられました。



さいたま教区が支援している「もみの木」は、大熊町などの福島第一原発事故により、帰還困難地域に指定されている人々が住む仮設住宅で作られたストラップやラベンダーの匂い袋などを販売され、これも完売でした。

9時半から始まった「復興支援の集い」も、午後1時には、販売を中止し、片づけを始め、1時半からの閉会ミサに備えました。



福岡キャンパスのグラウンドで行われたミサの様子

ミサの主司式は、駐日教皇庁大使ジョゼフ・チェノットゥ大司教。宮原良治司教ほか、多くの神学校関係司祭が共同司式し、多くの神学生が参列する大変荘厳なミサでした。この日のミサのテーマは「呼ばれています！ いつも！」で、説教は、大阪大司教区の崔 周永助祭でした。自分が兵役の期間の最後の休暇の日、列車に乗って兵舎に帰る途中、車両を連結しているデッキが上げられており、一步そこに足を踏み出していたら、死んでいたという体験から、「自分には何か使命が与えられているのではないか」と思い、カトリック教会に行くようになり、洗礼を受け、神学校に入ったという証しをしてくださいました。

ミサの最後にチェノットゥ駐日大使が、教皇フランシスコの「日本の青年たちへのメッセージ」を代読し、最後に「教皇フランシスコからの特別の祝福を与えます」という言葉と共に、教皇祝福をいただきました。

準備を含め短い2日間の福岡滞在でしたが、九州教会管区の皆さまの温かいお心遣いに触れ、「友よ、私たちは忘れない」という言葉が、真実なものとして心に響いた貴重な時でした。ありがとうございました。



## 被災地の今！Aコースに参加して

幼きイエス会 (ニコラ・バレ) シスター谷元郁子

11月9日から11日の日程で、被災地視察ツアー「被災地の今！」の宮城県、岩手県の被災地を巡るAコースに参加しました。

集合場所のカトリック元寺小路教会をめざして、地図を見ながら歩くこと5分。これまで震災の様子はメディアを通しては情報を得てきましたが、実際に触れるのは初めてです。今回のコースは亘理方面→石巻→南三陸方面→大船渡→釜石→大槌→宮古方面でした。

被災から4年半を迎えて、被災地の人たちはどのように過ごされているのか、またその復興の様子はどう進んでいるのかを心に留めながら、聖堂での祈りの後、車に乗り込みました。

どの被災地も、大型トラックがひっきりなしに行き来していました。低くなった土地の盛り土をしており、現場は何台ものクレーン車が活躍しています。

石巻では「がんばろう！石巻」の看板があり、「復興するぞ！」の文字は、そこに住んでいた人々の心意気と復興に賭ける強い意志が感じられました。昔は商店街であったという場所に、それはしっかり立っていました。一つの目標に向かって手作りされた神社には宗教を超えた協力があったことを知りました。避難場所である日和山公園からは大規模な「かさ上げ工事」が進められている様子わかります。

南三陸町では農業支援で長ネギの出荷の準備工場を見学しました。大きく育った長ネギを、機械で同じ長さに切り、根っこの薄い皮を取って、太さを揃え束にしています。目が離せない作業です。目が慣れるまでは大変な作業だと感じました。また、漁業支援もしているとのこと。今は貝の身をはがす作業があり、ボランティアの方々が1週間の予定で手伝っておられました。



その後、「津波がこんな地点まで！」という場所に案内されました。車がそのまま流されているのですが、樹木が重い車体を持ち上げています。四年という年月の経過を物語っているようでした。

気仙川に架かる二本の橋の「気仙大橋」と「姉齒橋」は津波で流されてしまったそうですが、陸前高田市は復興作業が他の地域よりも早かったとのことでした。それは対岸の山から切り崩した土を盛り土する現場近くまでベルトコンベヤーで運ぶことができ、ダンプカーで運ぶより3倍も早く作業効率を上げることができたことだそうです。「希望のかけ橋」といわれたそのコンベヤーも2015年の5月でその役目を終わり、大部分は解体されていました。電車が走っていた線路もはずされ、今後は線路を敷かないで、道路を拡張して車の道として完備している場所、また、吉里吉里(キリキリ)海岸と言われるほどかつては、白い砂浜が広がり、トリアスロンにも使われていたその美しい砂浜は狭くなり、防潮堤で囲まれていました。



岩手県大槌町 城山公園から町を望む

三陸海岸のある所では、鉄の杭が何本も打ち込まれています。防潮堤の高さを倍にする計画だそうです。海岸線はほとんど見えませんが、何年か先には、夢の広場公園が完成する構想があるそうで、楽しみで

す。被災者の方のポツリと言われた一言ですが、「自然と共存して生きていきたいのです」という言葉が心に残ります。

4年半の月日を経た被災地を巡り、被災された方々に寄り添いながら、どのような復興支援ができるか考え、日々を過ごしておられるスタッフの方々の心配りと活動を垣間見た思いです。避難所から仮設住宅また復興住宅へと移行しつつあるとのことですが、復興住宅に移りたくない人々も居り、また、隣同士の間人間関係も複雑であろうこと。その支援の仕方も今だからこそ難しいことがわかります。

今回私は、Aコースを選び、多くのベースを回ることができました。それも、少人数で巡り、ベースごとにガイドの説明が付くという、贅沢な旅でした。各ベースへの連絡もスムーズで広範囲を見て回ることができました。よく準備されたツアーだったと思います。私にとって、この2泊3日はかなりハードでしたが、その町の復興の様子や支援の様子を自らの目を見て、耳で聴いて知ったことが、とてもよかったですし、これからもずっと私の記憶の中に残り続けることと思います。



ツアーで訪れた岩手県大船渡市の様子

## 《被災地ツアー日程のご案内》

被災地ツアー「被災地は今！」につきまして、2016年3月～9月のスケジュールが決まりましたのでお知らせします。なお、8月はお休みとなりますので、ご了承ください。

お申込み方法等の詳細は、「仙台教区サポートセンター活動日記」の『視察ツアー「被災地は今！」2016年3月以降の予定』記事に掲載しておりますので、インターネットからご覧ください。

\*インターネットをご利用いただけない場合は、仙台教区サポートセンター（電話022-797-6643）まで、お気軽にお問い合わせください。FAX等で詳細をお送りさせていただきます。

また、2016年3月以降のツアー申込みに関して、申込みの受付開始日を各回とも実施の3カ月前からとさせていただきます。開始日前の申込みの受理はできかねますので、どうぞご了承ください。

（締めきりは実施の10日前となっておりますが、定員に達し次第締め切らせていただきます。）

皆様からのお申込みをお待ちしております。

○Aコース(宮城・岩手) \*コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース)～岩手県大船渡市～釜石市～大槌町～宮古市～盛岡駅経由・仙台着

《Aコース実施日程》

◇2016年3月14日(月)～16日(水)

受付開始日：2015年12月14日(月)

締めきり：2016年3月4日(金)

◇5月23日(月)～25日(水)

受付開始日：2月23日(火)

締めきり：5月13日(金)

◇7月26日(火)～28日(木)

受付開始日：4月26日(火)

締めきり：7月16日(土)

○Bコース(福島・宮城) \*コース内容は、変更となる場合がございます。

仙台集合～亘理町～山元町～石巻市～南三陸町(米川ベース)～福島県南相馬市～富岡町～大熊町～楡葉町～いわき市～郡山駅経由・仙台着

《Bコース実施日程》

◇4月18日(月)～20日(水)

受付開始日：2016年1月18日(月)

締めきり：4月8日(金)

◇6月28日(火)～30日(木)

受付開始日：3月28日(月)

締めきり：6月18日(土)

◇9月12日(月)～14日(水)

受付開始日：6月12日(土)

締めきり：9月2日(金)

## 《復興支援カレンダー完成！》

「東北復興応援カレンダー 2016年3月～2017年3月」が、完成しました。皆さまからの多くのお申込みをお待ちしております。ぜひ今後の継続的な活動のためにご協力をお願いいたします。



今回のカレンダーの表紙！

各月にどのような活動の写真が載っているかは、ぜひカレンダーを手にとりご覧ください。

カレンダーをご希望の方は、お申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAX またはメールで仙台教区サポートセンターまでご連絡ください。申込み用紙は「仙台教区サポートセンター活動日記」からダウンロードできます。FAX やメールをお持ちでない場合は、お電話で対応させていただきますので、お気軽にお問い合わせください。

※ご注文は5部以上、1部300円以上のご寄付をお願いします。

お寄せいただいた寄付金は、カリタスジャパンを通して、東日本大震災の復興支援活動のために使われます。

◎カレンダーは、在庫がなくなり次第、終了となりますので、お早めにお申込みくださいますようお願いいたします。

《お問い合わせ・お申込み先》

仙台教区サポートセンター

FAX：022-797-6648、TEL:022-797-6643

Eメール：sendaidsc@gmail.com

## 《第75号1ページ目の記事について お詫びと訂正》

前号でご紹介しました障がい者自立センターかまいし「2015年夏イベントと交流会開催」の記事におきまして、筆者に誤りがありましたので、訂正させていただきます。

正しくは、「障がい者自立センターかまいしスタッフ 小林隆」様が筆者でした。大変申し訳ございませんでした。

お読み下さっている皆様ならびに関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。